



Title	ウォルター・クレインの社会（主義）デザイン
Author(s)	川端, 康雄
Citation	デザイン理論. 2025, 85, p. 64-65
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/100276
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ウォルター・クレインの社会（主義）デザイン

川端 康雄 日本女子大学

はじめに

ウォルター・クレイン（Walter Crane, 1845-1915）はランドルフ・コールデコット（Randolph Caldecott, 1846-86），ケイト・グリーナウェイ（Kate Greenaway, 1846-1901）とともに英國ヴィクトリア朝期の三大絵本作家のひとりとして一般に知られているが，彼はウィリアム・モリス（William Morris, 1834-96）の仕事の追隨者として，1880 年代に勃興するアーツ・アンド・クラフト運動の主導者のひとりであったのみならず，同時期に興隆した社会主義運動に賛同して加わり活動した人物でもあった。本発表は，一般にはあまり知られていないと思われるこの政治面でのクレインの貢献について探った。

デザイナーとしてのクレイン

クレインは肖像画家トマス・クレインの次男としてリヴァプールに生を享けた。十代前半に彫版師 W・J・リントンの徒弟となり，1864 年には彫版師・出版者のエドマンド・エヴァンズと組んで「トイ・ブックス」という絵本シリーズを開始する。その絵本の人物像のタッチはラファエル前派と日本の浮世絵の影響が指摘されており，じっさい，両者への関心をクレインは早い時期から有していた。そして彼はラスキンとモリスに（とくに後者に）強く感化され，絵本の挿絵や油彩画を描きつつ，壁紙，テキスタイル，タイル，ステンドグラス，陶器など，デザイン作品を幅広く手がけいった。

第一回アーツ・アンド・クラフト展がロンドンのニュー・ギャラリーで開催されたのは 1888 年

秋であったが，それを組織するための展覧会協会は前年の 1887 年に設立されていた。その初代会長を務めたのがクレインだった。その展覧会はモリスの主導で実現したとする記述がしばしばなされるが，それは誤解で，クレインらがその組織立ち上げをモリスに相談した際に，モリスはむしろ消極的な態度を示したと証言されている。当時モリスは社会主義同盟の活動で多忙を極めていて，政治改革をめざして芸術の再生はないという思いを強く抱いていた時期だったという事情があるだろう。とはいっても，クレインらが尽力した展覧会開催に際しては記念講演で講師を務めるなどの協力を惜しまなかった。

クレインと社会主義運動

クレインが社会主義思想を受け入れるようになったのはモリスの講演「芸術と社会主義」の小冊子版（1884）を読んだことが契機であったと述懐している。クレインが社会主義に関する疑問をモリスに洗いざらいぶつけてみたところ，それに対して丁寧な答えが返ってきた。「その結果，問題点は氷解し，人類の進歩に関して悲観的になりかけていた私は社会主義の立場を受け入れた」のだと言う。

ヘンリー・ハインドマン（Henry Hyndman, 1842-1921）が立ち上げたイギリスで最初の社会主義団体である社会民主連盟（ヘンリー・ハインドマンが創設）にクレインは 1884 年に加入した。同年の暮れにそこで内部分裂があり，モリスがエリノア・マルクスらと共に脱退して社会主義同盟

を設立すると、クレインは1885年にその新組織に加入している。じっさいに社会主義示威集会にもたびたび参加している。1987年11月のトラファルガー広場でのデモ隊への治安警察と軍隊による弾圧事件（死者3人および多数の負傷者を出したことから「血の日曜日」事件と呼ばれる）にも居合わせており、その日の模様を回想録『芸術家の思い出』（1907）で克明に記録している。

社会主义のカートゥーン画家としてのクレイン

クレインは自身のデザイナーとしての力量を社会主义運動にも生かした。社会主义宣伝のための小冊子や単行本の表紙デザイン、ヴィネット、団体の標題（図1）、バナー（横断幕）の図案に加え、社会主义の大義を訴えることを目的とした一連のカートゥーンも描いている。「血の日曜日」事件の翌週に同じくトラファルガー広場でアルフレッド・リネルという労働者が騎馬警官に襲われた死亡した際には、リネルを追悼するモ里斯作詞の歌集の表紙を描いてもいる。

とりわけ、メーデーに寄せてクレインが描いた一連のカートゥーン（図2）は特筆に値する。古来の「五月祭」に乗ったかたちでの労働者の国際的な祭典としてのメーデーは1889年のパリ会議での第二インターナショナル設立とともに、1890年に始まった。その最初期から20世紀の初頭にかけてクレインはメーデーを称賛しつつ宣伝するカートゥーンを手がけている。

これらのカートゥーンが証すように、1880年以



図1 クレイン、社会主义同盟の標題（1885年）
(出典：<https://commons.wikimedia.org/>)

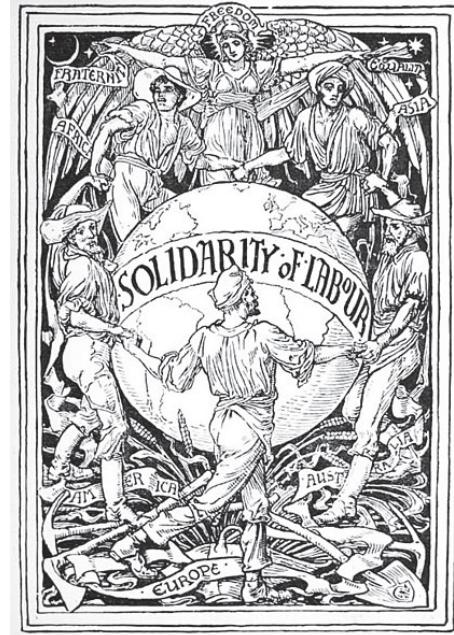


図2 クレイン『労働者のメーデー』(1890年頃)
(出典：<https://commons.wikimedia.org/>)

降、イギリスにおける草創期の社会主义運動のヴィジュアルなイメージを形づくるのにもっとも寄与したのがクレインであったと言って過言ではない。ハインドマンは1912年にそうしたクレインの仕事を評価して、彼を「社会主义のアーティスト」と呼んだ。

芸術と政治のそれぞれの面での前衛運動はしばしば相容れない。むしろ双方が反目しあってそれぞれの運動が進められることが得てしてある。一方で社会主义運動を担う活動家たちが芸術・文化運動を二次的なものとみなし、他方で芸術運動の推進者は同時代の政治運動に味気なさを覚えて共感しないというようなことは、特定の時代にかぎらず概してよく見られるものであろうが、英国の1880年代から20世紀初頭にかけての時期もそれは同様だった。こうしたなかでクレインはアーツ・アンド・クラフツ運動の中心的な役割を担いつつ、社会主义運動にも賛同し、とりわけ「大義のためのカートゥーン」を供給することで運動に貢献したのである。